

第 6 号

2017.3 発行

MARCH
2017

文部科学省博士課程教育リーディングプログラム

筑波大学グローバル教育院

エンパワーメント情報学プログラム

NEWSLETTER

平成28年度エンパワーメント情報学プログラム 第1期修了生が出ました！

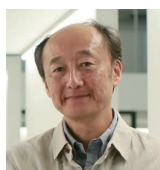
2016年度EMP修了生

村田 耕一、若生 遼、潘 雅冬



エンパワーメント情報学とは

「人の機能を補完し、人とともに協調し、人の機能を拡張する情報学」として、本プログラムが提唱する新しい学術領域です。これからの人類社会にとって、安全性、利便性、心の豊かさの向上といった様々な観点から、人の生活の質を向上させる工学システムを創出できる人材の育成を目指しています。



エンパワーメント情報学
プログラムリーダー・教授
岩田 洋夫

修了生へのメッセージ

本プログラムは初の修了生を世に送り出すところまで来ました。博士課程リーディングプログラム事業が産官学にわたって活躍できる博士人材の育成を目的とし、文部科学省からも就職率100%のプレッシャーがかかる中で、我々が用意した実践力を育成する演習・実習科目を習得した学生が、全員企業に就職できたことは、大変誇りに思います。博士課程リーディングプログラム事業では、修了生のネットワーク作りも評価項目に入っているため、最初の修了生が出ると同時に同窓会組織を立ち上げます。修了生の皆さんは、是非社会に出てからの経験を、後輩たちにフィードバックしてほしいと思います。



(株)日立製作所
研究開発グループ
リーダー主任研究員
影広 達彦

企業から見たエンパワーメント 情報学プログラム

私は企業の研究所に20数年勤務して参りましたが、教員としてお声掛け頂き、准教授(グローバル教育院)として活動しております。本プログラムで学生と接し、ポテンシャルの高さと、前向きな意欲を感じ、高く評価させて頂いています。現在、社会はグローバル化し、多様性によって見通しが難しくなっていると思います。企業としても「作れば売れる」という時代は終わり、お客様と一緒に将来を考え、ビジネスに繋げることが必須となっています。本プログラムでの教育は、まさに、これからの社会動向において、新たな価値を見出すアプローチの貴重な学習課程になっていると思います。将来を見据えて切磋琢磨し、世界でイノベーションを起こすような活躍を期待します。



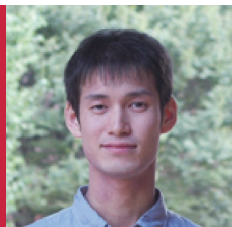
日本電気(株)
データサイエンス研究所
主幹研究員
塚田 正人

修了生へのメッセージ

エンパワーメント情報学プログラム第1期生の皆様、課程修了誠におめでとうございます。2014年度より教授(グローバル教育院)として、企業研究者の立場でインターン受入や弊社若手研究者との技術交流会を開催させて頂きました。皆様一人一人が強い意志を持ち研究活動に真剣に取り組んでおられる姿を拝見し、実践の場に出ても十分に活躍できると確信した次第です。今後は、プロフェッショナルとして社会に旅立たれます。大きく変動する昨今の社会情勢に翻弄される場面も多々あると思いますが、恐れることはありません。新しい社会価値を創造するんだという大きな目標を持ち、失敗を恐れることなく難しい課題に果敢にチャレンジしてください。皆様のご活躍をお祈りします。



Finished
Trainee
Comments

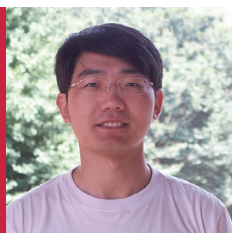


村田 耕一
システム情報系
山海 嘉之 教授指導

私がこのプログラムで得た最も大きなものは、「様々なチャレンジ経験」です。本プログラムでは、自ら課題を発見し、それを解決する手法を考え、実装し、人に魅力的に伝えるという一連の流れを学ぶことができます。それらを実践的に学ぶために、自主的なチャレンジ活動も推奨されています。私は、チームでの開発プロジェクト、国際コンテストでのプレゼン発表や学生同士で研究開発した技術の特許取得などにチャレンジし、様々な課題を乗り越えることに自信ができました。また、実際にチャレンジした際に、感じ学んだことは、今後の人生で必ず役に立つと考えています。企業においても、研究の内容に加えて、実践的な技術力やチャレンジ経験などは学生に求められていると思います。そのため、就職活動の面接でも、本プログラムでの経験やその経験から学んだことは非常にアピールしやすく、高評価を得られました。これほど恵まれた環境は他にはないと思いますので、興味がある人はぜひ本プログラムにチャレンジしてみてください。プログラム履修生は、研究とカリキュラムをうまく両立していくには大変な部分もありますが、悔いの残らないように様々なことにチャレンジし、自分の未来の可能性を切り開いて下さい!!



Finished
Trainee
Comments

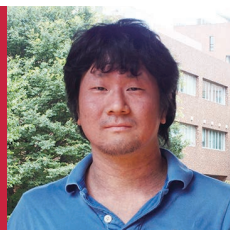


潘 雅冬
システム情報系
鈴木 健嗣 教授指導

I would like to thank Empowerment Informatics Program, which educates me to really improve my interdisciplinary ability, presentation ability, and frontline ability. I am so much grateful to the faculty and staff members in this program for their great effort in arranging interdisciplinary courses, research internship, and guidance on job-hunting. For the following students and Ph.D candidates, I would like to share some of my experience and knowledge.

Having your own philosophy is quite important in your Ph.D study. Be brave for it. The more you copy others' ways of thinking, the more difficult for you to generate new knowledge. Especially for EMP students, since we have colleagues in multidisciplinary research fields, we have more chances to create new objects, new connections, new frameworks, and the most important, new philosophy (knowledge). Never be satisfied with your current achievements until you really make them contribute to the society. We get Ph.D by publishing our research. However, glory on the paper is not enough. We should always keep looking with a wide field-of-view to reach the insight and future of our research.

After getting Ph.D, we may start in different ways towards our future career. Whatever becoming a supervisor, a white collar, or having a brand-new business, we are all trying to contribute to the society. In my case, I will start my career at NEC, one of the collaborative companies of EMP. In some companies, the recruitment process for doctoral students is a special one which differs from that for bachelors and masters. Taking NEC as an example, I had three times of technical interview. The first time of technical interview was actually a colloquium, where I showed the highlight of my research and prepared some questions to better understand the company's work and theory. Then in the second interview I gave a full presentation of my research by looking into both academic and the company's perspectives. Based on the discussion in the second interview, I made a project proposal that fits the company's construct, and presented it in the third technical interview. Throughout such recruitment process, what I achieved was not only a certification, but also a big vision that connects the value of my research to the society. Towards future career, I believe that all EMP students can do a good job!



若生 遼
人間系
綾部 早穂 教授指導



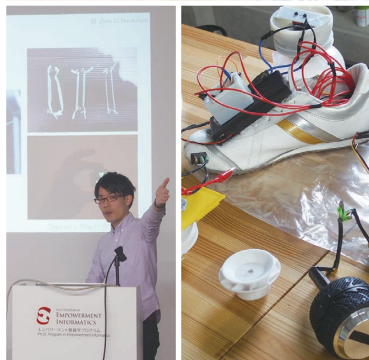
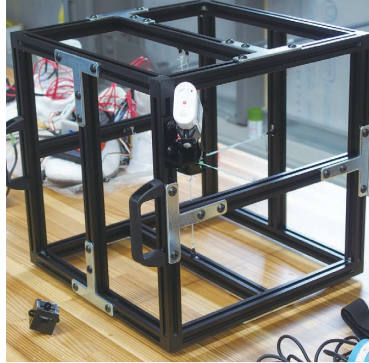
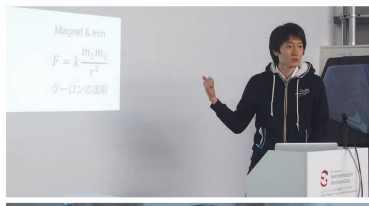
Finished
Trainee
Comments

心理の大学院からEMPに編入し、3年間大変お世話になりました。心理の学生間でしか研究の話をしたことがなかった私にとっては、この3年間はとても刺激的なものでした。EMPの様々な授業やプロジェクトに参加し、現場で生じている問題を解決する方法、問題に取り組む研究者としてのスタンスが、本当に多種多様であると身をもって感じられたことを幸せに感じています。人間の認知特性だけを調べるのではなく、デバイスを作成するだけではなく、その双方が協調するための「最適なバランス」を、双方の立場から探求する事が人間情報学なのだと感じています。この考えは私が就職活動において主張し続けた考えでもあります。基礎研究をいかに製品に落とし込むか、これは企業の現場が今直面している問題であり、その立場に立つことができる事が我々人間情報学の博士号を取得する者の強みであると感じます。それ故に、在学3年間の中でEMPの学生全員の研究を心理の立場から捉え直し、共に議論が行えなかった事をとても残念に感じています。皆様には多少無理をしても、EMP内外問わず積極的に他分野の方とのコミュニケーションをとってほしいと感じます。



筑波大学 特命教授
逢坂 卓郎

エンパワーメント情報学プログラム(EMP)の高度専門科目の一つである「宇宙芸術ワークショップ2016」の演習授業は、宇宙と芸術をテーマに工学と芸術が融合された視点から新たな提案を行おうとするものです。宇宙開発に於ける成果は、地球外からの視点と無重力環境に於ける新たな世界観の創出だと思われます。私たちは無意識のうちに重力と対峙し、デザインされた建築やプロダクト製品に囲まれて生活し、思索と創造を続けてきました。無重力環境では水平と垂直の概念とともに感覚も解放されます。宇宙ではむしろ、重力のない環境が日常なのです。授業では1900年代から始まった 0G Art (無重力芸術) に注目してリサーチを行い、JAXAの研究者からアドバイスをを受け、それが無重力環境で成立するかどうかの実験を行いました。そして10月27日、28日には、パラボリックフライト専用機に搭乗し15回の無重力実験フライトを行い、0G環境に於いて可能となる表現の探求を実施しました。人類の夢であった浮遊体験を通し、工学や芸術の在り方について、また、私たちが生きてきた環境や条件、つまり地球と私たち自身をも再考する契機となることを期待します。

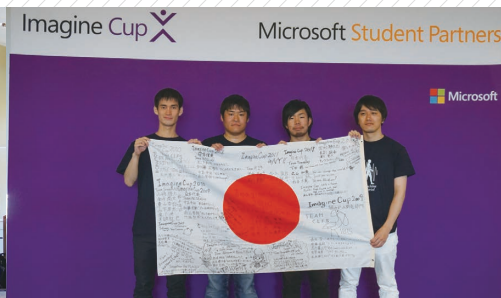


Student Comments



2015 年度入学
Karlos Ishac

For the Space Art Workshop I developed a project entitled 'Space Gliders', an exoshoe that allowed the user to stick to surfaces such as the floor and ceiling. My vision was to improve and add a new dimension of personal mobility for astronauts in 0 gravity conditions to give them more control during operative tasks and reduce support structures in aircrafts that take up a lot of interior space and increase the weight of the aircraft. I also envisioned it being used as a stabilizer for the user so that they can use it as an apparatus to assist in exercise and training. The exoshoes were controlled using 2 small joysticks I attached to my hands. To my joy the prototypes worked under the 0 gravity conditions and I was able to stick to the floor and ceiling of the aircraft in most of the trials. The system can be improved by implementing a sealant for maintaining the pressure suction as the failed trials were mainly due to air escaping from the pressure zone. In the future I would like to add wheels to the system to allow astronauts to 'skate' around in the aircraft.



EVENT Microsoft Imagine Cup

2016年4月23日(土)に開催された「Microsoft Imagine Cup 2016 日本予選大会」で「Bionic Scope」を発表し、イノベーション部門賞を受賞した(当時)5年次 村田 耕一さん、江國 翔太さん、2年次 朝倉 靖成さん、システム情報工学研究科博士前期課程2年次 上原 皓さんのチーム「Biomachine Industrial」が「Imagine Cup世界大会」のファイナリストに選出されました。

Student Comments



2015年度入学
朝倉 靖成

Imagine CupはMicrosoft社が主催する世界最大の学生ITコンテストです。Imagine Cupの特徴は、提案するテクノロジーの素晴らしさだけでなく、それが世界にもたらす革新や、どう社会に展開していくのかといったビジネスプランまで求められる点にあります。今回私たちが開発したのは、人間の視覚を拡張するウェアラブルデバイス「Bionic Scope」です。これは、奥歯の噛みしめと大きなまばたきによって、ハンズフリーで直感的に視野のズームイン、ズームアウトの操作を可能とする革新的なデバイスです。特に災害現場で行方不明者の捜索において、装備で手が塞がった状態でも、通常視野からズームした視野までを提示できる全く新しい視覚拡張システムとして提案しました。

私たちは日本予選を突破後、デバイスのさらなるブラッシュアップや、英語でのプレゼンテーション準備などに取り組み、全力で世界大会に臨みまし

たが、残念ながら入賞には届きませんでした。最後の壁を超えるのに足りなかったのは、システムの実現可能性の検証であると痛感しています。Bionic Scopeの想定ユーザーであるレスキュー隊の方々からの意見や、想定される使用環境での運用試験を盛り込んだプレゼンテーションをすることで、デバイスの必要性をよりアピールできたと考えています。

入賞こそ逃しましたが、Bionic Scopeの技術は他のチームと比較しても突出しており、Microsoftのエンジニアや研究者の方からも高い評価をいただきました。

現在、Bionic Scopeのコア技術は特許申請が通り、社会に出す段階へと進むべくプロジェクトを推進しています。今後も、今回の経験を糧に新しいことへ挑戦し続けていく所存です。

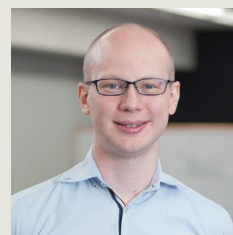
EVENT 早稲田-筑波リーディングサマースクール

2016年10月1日(土)、2日(日)の二日間にわたり、エンパワースタジオにて、早稲田-筑波リーディングサマースクールを実施しました。本イベントは早稲田大学実態情報学博士プログラムと本学エンパワーメント情報学プログラム(EMP)との合同で実施され、EMPからは履修生7名が参加しました。

始めにEMPの授業「エンパワーメントプロジェクト研究」の発表会が実施され、その後、エンパワースタジオにある世界最大級のバーチャルリアリティ(VR)空間Large Spaceを使用しVRコンテンツを提案・制作するハッカソンが行われました。参加者はチームに分かれ、企画・試作を行い、2日目の成果発表会では学生同士の討論と教員からの講評が行われました。また、サマースクール実施後に行われた情報交換会では、学生同士の懇親だけでなく、プログラム間の学術的交流を深める良い機会となりました。



Participant Comment



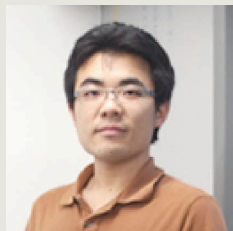
早稲田大学
実態情報学プログラム
Alexander Schmitz 助教

EVENT

ARS ELECTRONICA 2016 & つくばメディアアートフェスティバル

2016年9月8日(木)～12日(月)にかけて、オーストリア・リンツで開催されたARS ELECTRONICA FESTIVAL 2016に、エンパワメント情報学プログラム(EMP)の履修生6名(高嶋 倫太郎さん、佐々木 海さん、加納 青李さん、BRUMLEY Johnさん、BOEM Albertoさん、LOBO Joanaさん)が、授業「エンパワメントプロジェクト研究」にて、今年の4月から学生同士でチームを組み取り組んできた研究成果を出展しました。また、2016年11月26日(土)～12月4日(日)の期間につくば美術館で開催された「つくばメディアアートフェスティバル2016」にも出展し、その様子が常陽新聞で紹介されました。

Student Comments

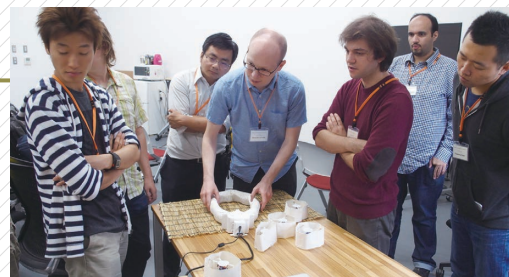


2016年度入学
加納 青李

私たちは「エンパワメントプロジェクト研究」という授業で、ICU内といったシビヤな環境下にある患者と、その家族のコミュニケーションに着目し、Vital+Morphという装置を開発しました。この装置の開発は2016年度編入の3名で行っており、それぞれのもつ、無線通信・ソフトウェア、メカニクス、メディアアートと、異なった専門分野が生かされた作品です。

この作品は、世界最大のメディアアートフェスティバル、Ars Electronicaや、つくばメディアアートフェスティバルで展示を行い、600名を越える来場者へ作品の説明と、コンセプトや作品についてのディスカッションを行いました。頂いたコメントとしては、「面白い発想」や「商品化して欲しい」といったポジティブな意見から、「気持ち悪い」や「怖いから生体情報を感じたくはない」といったネガティブな意見まで様々でした。今回の開発と展示を通して得られた、異なる専門や一般の方からの意見は私にとってとても新鮮なものでした。特に、アートはこれまでの私にとって無縁のもので、データの表示の仕方・伝え方といった点において、私の発想とは根本的に異なるもので、今後の研究にとってとても良い刺激になったのではないかと思います。

平成28年11月28日(月) 常陽新聞 1面掲載



October 1st and 2nd the joint summer school took place in the "Empowerment Studio", Tsukuba. First, the Empowerment Informatics program in Tsukuba was presented to the professors and students of Waseda University. The students in Tsukuba presented us with their research and we were really impressed by the quality of the presented works. The quality of the research was also proven by the fact that they had been accepted to present their work at the Ars Electronica the same year. The "Large Space", the world's largest virtual reality system, was really impressive to walk around in such a huge virtual environment. This lead to the main part of the summer school, as the students should develop software to make use of the Large Space. After a brief introduction to the software, three teams were formed, with mixed students from Waseda (Graduate Program for Embodiment Informatics) and Tsukuba. The students came up with their original ideas of how to make interactive software for the Large Space, which is also equipped with a motion tracking software. After a day of intense programming, the students presented their results. Furthermore, there was a nice social program implemented, in particular we had a reception with a buffet on Saturday evening, and went for Chinese food on Sunday. This gave the possibility to get to know each other more and exchange ideas. Finally, we want to express the professors from Tsukuba University our gratitude for their warm welcome and for organizing the summer school so professionally.

EVENT

博士課程教育リーディングプログラム フォーラム 2016

2016年11月11日・12日、ヒルトン東京お台場にて「博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2016」が開催されました。エンパワーメント情報学プログラム(EMP)からは履修生5名が参加し、意見交換会において企業の人事担当者に向けた自己アピールを行うとともに、分科会ではパネリストとして発表を行いました。



Student Comments



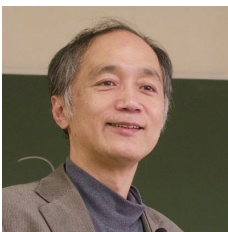
2015年度入学
Maša Jazbec

Between 11th and 12th of November 2016 I participated at the “Program for Leading Graduate Schools” -Leading Forum 2016. Leading forum was held in Tokyo at the Hilton Odaiba Hotel, hosted by Keio University and Japan business Federation Keidanren. At the forum we had an opportunity to hear the first students of “Program for Leading Graduate Schools” who are preparing to start their professional careers. The first day of the forum was focused on the industry, a field for which the programs have provided new sources of talented graduates. We have been also informed about the success of these school programs through various presentations which included also the statistical results of the programs. After the presentations we had an opportunity to present our research interests to all the forum participants and visitors from various companies, research institutes, faculty members, and stuff involved in the programs.

The second day we had an opportunity to hear students and others involved in the program who shared information and experiences of their studies from other Leading Graduate Schools programs. There were career path specific sections for each of the occupational fields in which graduates are anticipated to play their roles in the future. I participated at the Session 6: International Career Path. The aim of this session was discussion the pathways, motivations and the other required sophistications to create and realize career paths as a global leader in the international organization. At the session was participating four professors and four of us students. I was presenting my realized projects in the frame of Trbovlje New media setting program which we are developing in Slovenia. I was happy to hear many good comments from the professors involved in the discussion and also some students from the audience contacted me after the presentation with the interests to hear more about the program that I was presenting.

研究室紹介

オペレーティングシステムとシステムソフトウェア研究室 (OSSS) & ウェブサイエンス研究室 (WebSci)



システム情報系
加藤 和彦 教授

当研究室は、少し変わった研究室です。看板が2つあるのです。もちろん、元々は看板は1つだけだったのですが、2015年の卒研究生配属の時点から看板を2つに分けました。

看板を分ける前から、オペレーティングシステムや仮想マシン用ハイパーバイザ等の所謂「低レイヤ」から、分散システムやコンピュータセキュリティといった中間的なレイヤ、そしてソーシャルネットワーク分析などの「高レイヤ」まで、幅広いエリアのソフトウェアを研究テーマとして当研究室は扱ってきました。研究を進める上では特に不都合は無いのですが、研究室配属を控えた学生さん達から見ると、ここは一体何の研究室なのだろうと混乱してしまうのです。

研究室のメンバー構成ですが、私(加藤)のみが両方の研究室に所属し、OSSS側には阿部先生と長谷部先生、WebSci側には岡先生と橋本先生がそれぞれ所属しています。学生さんも、記録上はいずれかの研究室に所属する形になっています。組織上は分かれていても、両研究室は部屋や設備等を物理的に共有しており、また、両研究室のメンバーが一同に介してのゼミを定期的開催したりなどしていますので、実質上は従来と何も変わっていません。また、研究室が分かれたと言っても、人間関係にヒビが入ってケンカ別れした訳ではありませんので心配はご無用です。1年ほど前から、当研究室は、トヨタ自動車と筑波大学による特別共同研究事業の一端を担い、車両交通システムに関する研究にも携わるようになりました。研究室が始まって以来長らく、コンピュータの中の現象やコンピュータ上の社会という「サイバー」な世界を相手にしてきましたが、そこで培った手法やアイデアを交通システムという超「リアル」な世界に持ち込めないだろうかと日々模索しています。

Student Comments



2015年度入学
佐藤 晃矢

私が所属する加藤研究室では、加藤先生を中心として教員5名が所属する非常に大きな研究室となっています。私の所属する研究室では、並列計算(加藤先生)、ネットワーク通信(阿部先生)、分散システム(長谷部先生)、Webサイエンス(岡先生、橋本先生)という情報科学に関連した様々な研究テーマの中から、自身の興味に従って選択することが可能となっています。

情報科学という研究分野の特徴として、

最新の技術が目まぐるしく発展していく点があります。その為、十分な量の知識がなければ、自分の行う研究に新しさや面白さは生まれません。私達は新たな知識を謙虚に学び続ける必要があります。しかし、知識を獲得するだけでは研究は進みません。成果発表を行わなければ、他の人には伝わりません。その為、私達の研究室では知識の獲得と成果発表の兼ね合いを大切にしています。私達の研究室では、週に1度の論文紹介と、自分の研究の進捗を報告するゼミという場を通してこのようなバランス感覚を常日頃から培っています。

私達の研究室では実際の企業との共同研究も盛んにおこなっています。研究の過程で得られた知見をそこで終わらせるのではなく、社会実装という形で現実の問題に適用できる点もこの研究室の面白さとなっています。



西田 惇さんがACM UIST 2016にて Honorable Mentionを受賞しました。

2016年10月16日から19日に国立情報学研究所で行われた、ACM UIST 2016: 29th ACM User Interface Software and Technology Symposium Student Innovation Contestにおいて、ファイナリストとして発表を行った作品bioSyncが Honorable Mentionを受賞しました。

UIST 2016 Student Innovation ContestはHapticsを中心としたVirtual RealityやAugmented Reality作品を表彰するコンテストです。本作品は書類審査などを経てファイナリストに選出され、最終選考会での当日の審査により優秀な作品および技術と認められ、EMS: Electrical Muscle Stimulation分野における技術進展に寄与したとしてHonorable Mentionを受賞しました。



西田 惇さんが「18th Computing in the 21st Century 2016」にて Microsoft Research Asia PhD Fellowship Awardを受賞し、 2016年度Fellowに採用されました。

2016年11月3日に韓国ソウル・延世大学で行われた、18th Computing in the 21st Century 2016において、Microsoft Research Asia PhD Fellowship Awardを受賞し、2016年度Fellowに採用されました。

Microsoft Research Asia Fellowship Programはアジア・太平洋地域の情報科学分野のPh.D.学生に対して与えられるフェローシップ制度で、1999年から開始され、今年で18回目になります。本賞は中国、香港、台湾、日本、韓国、シンガポールを含むアジア・太平洋地域の40の大学・研究所から選抜されたPh.D.学生110人のうち、書類審査および最終面接試験を通過した者に与えられるものです。本年度は10名が選抜され、日本から唯一の受賞となりました。



GUGEN2016にて西田惇さんが大賞を、 小木曾里樹さんのチームがQuadcept賞を受賞しました。

2016年12月17日に秋葉原コンベンションセンターで行われた、株式会社ビーバンドットコム主催ハードウェアコンテストGUGEN2016において、3年次 西田惇さんの作品bioSyncが大賞を、3年次 小木曾里樹さんのチーム「aclab team a」の作品pack-loggerがQuadcept賞(スポンサー賞)を受賞しました。

GUGEN2016はIoT、電子工作、デバイスを中心としたハードウェア作品を表彰するコンテストで、今年で8回目になります。本作品は150件の応募作品の中から一次審査などを経てファイナリストに選出され、最終審査会でのデモ審査による大賞ノミネートとプレゼン審査を経て、「今後も研究開発が進んでいく作品」「さらにブラッシュアップすることで未来を画期的に変える可能性がある作品」という観点から、審査員の得点が突出して高かった作品として大賞を受賞しました。



受賞一覧

受賞日	氏 名	イベント名	受賞対象論文・作品	受賞名
2016年 7月14日	(河原 圭祐)、西田 惇、 (蜂須 拓)	Kids Design Award 2016	Hearable Devices: 聴覚障害児の社会的 相互作用を支援するスマートデバイス	キッズデザイン賞
2016年 10月18日	西田 惇	ACM UIST 2016: 29th ACM User Interface Software and Technology Symposium Student Innovation Contest	bioSync: Blending Kinesthetic Experience among People	Student Innovation Competition Honorable Mentions
2016年 11月3日	西田 惇	Microsoft Research Asia PhD Fellowship Program 2016	Augmenting Social and Embodied Experiences among People by Wearable Devices	Fellowship Award
2016年 12月17日	西田 惇	GUGEN2016	bioSync: 身体接続技術に基づく 新しい身体間インタラクション	大 賞
2016年 12月17日	小木曾 里樹	同 上	Pack-Logger	Quadcept賞

招待講演・招待展示・その他自主的な活動一覧

2016年 9月8日-12日	加納 青李、BRUMLEY John、BOEM Alberto、LOBO Joana、佐々木 海、高嶋 倫太郎、ARS ELECTRONICA FESTIVAL2016 にて招待展示
2016年 10月15日-11月6日	岩田 洋夫教授、文化庁メディア芸術祭20周年企画展に出展
2017年 1月4日	CHACIN Aisen、スロベニアのトルボヴリエにてFireFlex: Assistive Device Art Exhibitionを実施

主な行事 (2016秋～2017春)

2016年 9月 3日・4日	ニコニコ学会βサマーキャンプ 2016 実施
2016年 9月 6日	第2段達成度審査実施
2016年 10月 1日・2日	早稲田・リーディングサマースクール 2016 実施
2016年 10月 12日	プログラム説明会・入試個別相談会実施
2016年 11月 10日・11日	最終達成度審査実施
2017年 1月 31日・2月 7日	学位論文審査実施
2017年 3月 24日	学位記授与式



最終達成度審査実施



プログラム説明会・入試個別相談会実施



プログラム説明会・入試個別相談会実施

EMPセミナーシリーズ

エンパワメント情報学プログラムで運営しているセミナーシリーズです。
エンパワメント情報学における主要な学術領域の最先端の研究者を招き実施しています。

企業と技術者	年 月 日	講 演 者	演 題
第4回 コリキウムシリーズ	2016年 10月 14日	ビジネスコーチ株式会社 クラウド担当顧問兼エグゼクティブコーチ 板越 正彦 氏	Project Management Part 1
企業と技術者	2016年 10月 21日	Product manager on the Watson Industry Applications team and a former software engineer on the Watson Life team Reah Miyara 氏	Cognitive Computing and its Applications
第5回 コリキウムシリーズ	2016年 10月 31日	ビジネスコーチ株式会社 クラウド担当顧問兼エグゼクティブコーチ 板越 正彦 氏	Project Management Part 2
企業と技術者	2016年 11月 4日	Kawasaki Professor of Engineering, The Massachusetts Institute of Technology Department of Mechanical Engineering Prof. Nicholas M. Patrikalakis 氏	SHAPE MODELING AND INTERROGATION
第2回	2016年 11月 21日	京都大学工学研究科 メカトロニクス研究室 研究員 高瀬 進 氏	アントレプレナーシップ入門
第3回	2016年 11月 29日	立命館大学 和田 隆広 教授	Mathematical Modeling of Comfort in Human Location and Its Application to Human Machine Systems
第6回 コリキウムシリーズ	2016年 11月 30日	日本アイ・ビー・エム (株) ワトソン事業部 ヘルスケア事業開発部 部長 川口 克己 氏	学習するコンピューター IBM Watson、 医療応用への挑戦
第4回	2016年 12月 1日	Senior Software Engineer at Zynga Brian Morishita 氏	Agile Mobile Game Development at Zynga
第7回 コリキウムシリーズ	2016年 12月 20日	慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室 大高 洋平 助教	活動とリハビリテーション
第8回 コリキウムシリーズ	2016年 2月 23日	Professor of Design Media Arts and Film, Television and Digital Media, UCLA Erkki Huhtamo 氏	Screenology: Media Archaeology of the Screen
第5回	2017年 3月 14日	明和電機 代表取締役社長 土佐 信道 氏	明和電機のナンセンスマシーン
		University of Stockholm Prof. Barry Brown 氏	Mobile Life: A research overview

入試情報

下記の日程で、2018年4月入学者を募集します。要項等の詳細はウェブサイトをご覧ください。

種 類	時 期	募集人員	募集要項公開時期	願書受付期間	試験日	合格発表日
一般入試 出願形式: WEB * 英語版のみ	10月期	6名(1年次) / 若干名(3年次)	5月	9月19日(火)～9月25日(月)	10月23日(月)～11月12日(日)	11月20日(月)
	2月期	若干名(1年次) / 若干名(3年次)	5月	12月4日(月)～1月9日(火)	2月1日(木)	2月16日(金)
履修者特別選抜 出願形式: 紙媒体	12月期	6名(1年次) / 若干名(3年次)	5月	11月20日(月)～11月22日(水)	12月5日(火)	12月15日(金)
	2月期	若干名(1年次) / 若干名(3年次)	5月	1月18日(木)～1月19日(金)	2月1日(木)	2月16日(金)

※上記日程以外に実施する場合は、随時ウェブサイトにてお知らせいたします。

